

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ニットトシコゼミナール
文京学院大学	経営学部	新田都志子ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は『有・無』を記入し、『有』の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) シーハン	フリガナ) ハシモト チカ	5	無	
C 班	橋本 知佳			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

エスカレーターの手すり・ステップ・ライザーのデザインの原寸大コピー、エスカレーターの模型、キーホルダー、マイク (2本)

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

## 研究テーマ (発表タイトル)

エスカレーター利用において誰もが安心する環境を目指して

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

研究目的は、不自由を感じている人のために根付いた習慣を変え、どちらにでも立ち止まって乗車できる環境づくりの方法を提案することである。根付いた習慣とは、都心部に多く見受けられる『左側立ち止まり右側歩行の状態』のことである。

まず前提として、エスカレーターは構造上歩行するよう設計されておらず、国土交通省はエスカレーター利用に関するガイドラインを発行し、業界自体も歩行禁止や注意喚起を呼びかけ、様々な啓発活動に取り組んでいる。誰もが利用するエスカレーターは安全であるべきだが、現在安全喚起として行われている対策は不十分で、その施策もあまり有効的ではない。

以上のことから、私達はエスカレーターを誰もが安全に利用できる新しい施策を提案することを目的として活動する。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在、図1のような、左側立ち止まり右側歩行という状態がエスカレーター上で起こっている。私たちの独自アンケートから、約74%の人がこの状態を常識・マナーであると考えており、約81%の人がエスカレーターの右側を歩行している状況にある。このことから現在のエスカレーターの利用方法が間違った常識として根付いてしまっていることが分かった。

この現状により、近年エスカレーター上で事故が多発しており、歩行者自身の転倒のみならず、立ち止まっている人も巻き込み、事故や危険な状態に陥っている。

その対策として、エレベーター協会が毎年開催し、今年で8年目の活動になる「みんなで手すりにつかまろうキャンペーン」がある。そのキャンペーンの有効性を探るべく独自アンケートを行った結果必ず手すりにもと答えたと人が約36%と4割未満に過ぎず、手すり利用が徹底されていないことが分かった。

そこで、図2の解決ステップを立て、まずは手すりにつかまらせることを利用者に徹底させることと考えた。



図1 現在のエスカレーターの乗り方

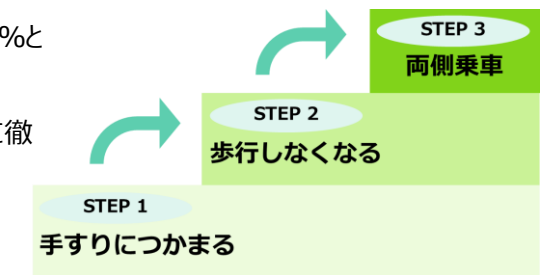


図2 問題解決のためのステップ



図3 手すりにつかまらせるためのデザイン施工

図3のようなデザインを手すりに施した。これはビジュアルデザインを活用したもので、デザインコンセプトを「思わず手すりにつかまりたくなる」とし、デザイン施策を提案した。実際にアトレ目黒1において2017年10月9日～31日に手すりデザインを施した。その結果、手すり利用率は上がり、歩行率は減ったという結果からデザイン啓発の有効性を見出すことができた。しかし、このデザイン施工は利用時に手すりにつかまらせるだけであって、根本的になぜ歩いてはいけないのか、右側にも立ち止まってもよいという事実が認知されていないことが課題に挙げられる。

## 3. 研究テーマの課題

現状でも示した通り、今回着目する都心部では左側に立ち止まり右側を歩行するという乗り方によって生じる問題があるということが課題である。事故数や輸送効率の問題のみならず、現在の状態で不自由に感じている人がいるということである。毎日新聞の記事をきっかけに存在を知り、さらにさまざまな箇所にヒアリング調査に行ったところ、実際に不自由に感じている人が多数いた。

また、昨年度の研究の限界から問題周知活動まで至らなかったことが挙げられた。そこから独自のアンケートにより、不自由を感じている人の存在認知と歩行の関係性（図4）を算出した。必ず立ち止まっている人は問題意識を持ち行動していることがわかる。そこから課題に挙がっていた問題周知活動の必要性を再認識した。

また歩行者の中でも、人の流れで歩行してしまうことや左側立ち止まり右側歩行の現状に不満を持っていることが分かった。しかし、右側に立ち止まることには間違ったルールや習慣の障壁により難しいことが分かった。そこで、私たちは2つの軸を持って解決していきたいと考える。

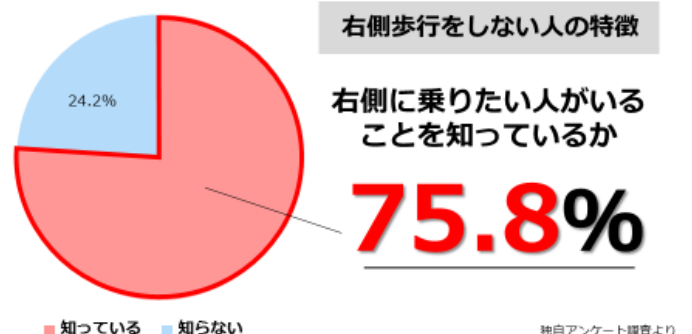


図4 不自由を感じている人の問題の認知度と歩行率の割合

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

昨年度の活動から、ビジュアルで示すことの有効性が実証されたため、ビジュアルによる施工活動を継続して、問題周知活動まで至らなかったという点から今回は2つの軸での解決を提案する。

##### ① ビジュアルを用いたエスカレーターデザイン施工

問題の周知に伴い、実際にデザインを施工することで誘導する。問題の原因である歩行を直接的に解決するための活動であり、現状から独自調査で有効的な部位、場所を選定した。

##### ② 問題の認知促進活動

現状で挙げた問題の認知が浸透していないことが問題と考え、独自の 방법으로問題の認知促進活動を行った。独自の問題周知方法とはエスカレーターに関する講演会を小学生から高齢者まで幅広い年代に実施、その後ディスカッションを行い意見交換をすることによって問題の理解を深める活動である。それを私たちは「おもこ教室」と呼ぶ。**おもいやりをここから**という意味を含めたエスカレーター安全利用のための講演会のことである。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

##### ① エスカレーターデザイン施工

不自由者の存在を知らない、またその他理由で歩行する人が自然と立ち止まるようなデザインを考案して意識、行動を変える。施工企業である株式会社アサイマーキングシステムに協力いただき、自発的に人々の行動を変容させるアプローチをする。

施工部位は視認率が高いことからこれまでの手すりに加え、「ステップ、ライザー」に拡大した（図5）。施工場所は昨年度同様、アトレ目黒1への施工が12月ごろに決定した。

##### ② おもこ教室

現在、企業が行っているエスカレーターに関するキャンペーンは輸送効率に関することや安全啓発が多く、困っている人の周知をしていないため、おもこ教室では少人数に訴えかけ、この問題で困っている人やエスカレーターを利用する際に不自由に感じている人が多くいることを知らせることで関心が高まると考え実行した。



図 5 デザイン施工部位

#### 6. 結果や今後の取り組み

エスカレーター施工と問題周知の2つの軸の継続・拡大をしていく。

##### ① エスカレーターデザイン施工

アトレ目黒1におけるデザイン施工は効果検証を事前、事後三日間で予定している。効果検証でデザインによる行動の変容、デザインへの意見を収集する。検証データをもとに、デザインの修正を行い、より効果的なデザインを模索していく。

また、計画として施工施設の拡大を行う。駅隣接の商業施設での施工実験を重ねながら、駅での施工を行うべく継続的なアプローチを行っていく。

##### ② おもこ教室

子供、大学生、社会人、高齢者にセグメンテーションし、ターゲット別に内容を変更してテスト検証を行った。検証結果から、多くの社会人が問題を起きているということがわかった。

そこで、ターゲットを社会人に選定し、おもこ教室を開催した。開催後に取ったアンケート（図6）から、講演会の有効性を立証することができた。今後は、

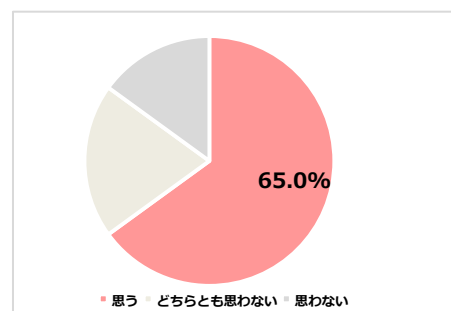


図 6 行動を改善しようと思ったか

講演会の規模拡大を図るために、11/23（金）に光が丘駅で行われる「チャレンジ！ TOKYOfor 2020～エスカレータ



「止まって乗りたい人がいる～」を機にエスカレーターマナーアップ推進委員会と連携し、各世代へのアプローチを継続して行っていく。

また、私たちの地道な活動が認められ、毎日新聞に取り上げられることが決まった。しかし、さらに問題の認知促進を図るためにはマスメディアを活用した拡散が必須であると考え。今後は2020年の東京オリンピックを見据えたうえでアプローチ先をオリンピック・パラリンピックのスポーツ選手に変え、活動していきたい。また、この問題の解決に向けて今後も大学全体での取り組みを考えている。

## 7. 参考文献

### 【論文】

大江ほか『サプライチェーンマネジメントにおける戦略パターンとパフォーマンス分析』

斗鬼正一『エスカレーター片側空けという異文化と日本人のアイデンティティ』

福留和彦（2012）『部分最適と全体最適について』

国土交通省住宅局建築指導課 エスカレーターの転落防止対策に関するガイドライン（平成29年）

### 【書籍】

D.A ノーマン（1990）『誰のためのデザイン？認知科学者のデザイン原論』新曜社

櫻田潤（2013）『インフォグラフィック入門』ピー・エヌ・エヌ新社

三浦佳世（2010）『現代の認知心理学 1 知覚と感性』北大路書房

### 【WEB】

エスカレーターの日「安全利用キャンペーン」アンケートの集計結果について

[http://www.n-elekyo.or.jp/docs/20180326\\_elecampaignquestionnaire.pdf](http://www.n-elekyo.or.jp/docs/20180326_elecampaignquestionnaire.pdf)（2018年6月20日検索）

株式会社アサイマーキングシステム「【導入効果】抜群な視認率と訴求力」

[https://www.ams-fleet.com/service/product/decoration\\_wrapping.html](https://www.ams-fleet.com/service/product/decoration_wrapping.html)（2017年7月23日検索）

東京消防庁 救急搬送データからみる日常生活の事故（平成26年）

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/201510/nichijoujiko/data/all.pdf>（2018年9月19日検索）

NHK 二度目の五輪パラリンピック聞いてほしい「みんなで止まれば、速くなる」

[https://www.nhk.or.jp/d-navi/2020/article\\_11.html](https://www.nhk.or.jp/d-navi/2020/article_11.html)（2018年11月2日検索）

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員（ビジネスパーソン・大学教員）の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、『日本語』で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経BPマーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは『不可』とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、『不可』とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会（プレゼン局）にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は『不可』とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず『有』とご記入ください。『有』の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を『不可』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**